

# 月報 岡崎の教育

平成3年度 No.215～226

岡崎市教育委員会



# 月報 岡崎の教育

4月号

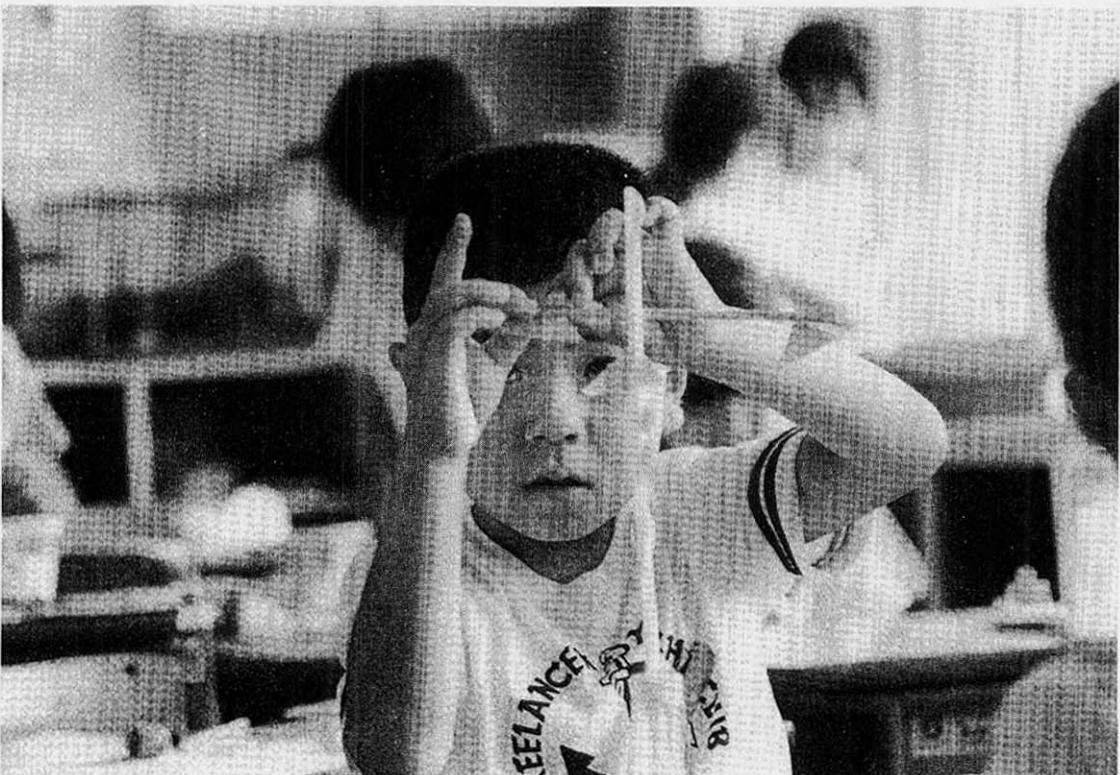
平成3年4月1日  
発行／編集  
岡崎市教育委員会

かばさんのあくびのように  
口をいっぱいに開け  
足でステップを踏みながら  
体がはじけて  
あの子の歌声が飛び出す

指揮者を一点に見つめ  
前傾姿勢を保ちながら  
フルートのように  
柔らかな聲音がまっすぐに伸びて  
この子の歌声が広がる

あの子とこの子を結ぶ  
時間と空間のなかで  
千二百をこえる幾多の歌声が  
連なり

波となり  
うねりとなつて  
心のハーモニーを映し出す

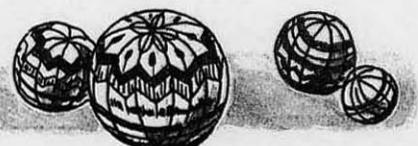


(マストはこれでいいかな - 六北小)



ふるさとシリーズ

# この人に聞く



## 子どもの本研究会

霜田 美津子 氏

岡崎子どもの本研究会会長をしてみえる  
霜田美津子さんを伊賀町のお宅にお訪ねした。

折しも、子供向けの本「のれたぞ！  
一輪車」を出版されたばかり。

「十三編載つていて、岡崎の研究会から  
四人が書いているんです。一生懸命生きる子供の姿を全国から集めた愛知県  
版です。ひとつひとつは短いですが、

その子の本当の話なんです。素人が書く作品は洗練されていないけれど、清

らかな目で見ていて、書いてやろうと  
いうものはありません。だから、読み手に伝わるものがあるのではないかと

いうのが出版社のねらいのようです。岡崎子どもの本研究会は、来年十周年をむかえる。現在会員数が百三十名ほど、月一回定例会があり、ニュースを出している。定例会では、テーマの本を読み合って、子供の本の魅力をさぐる話し合いが行われる。先生は、二代目会長である。「本の好きな親が、子供にどんな本を読ませたいか」ということで集まつたのが始まりです。

会の活動のほかにも先生は太陽の城で読み聞かせを長く続けてみえる。「子供は、繰り返しが大好きですね。それは、子供が一番本を好きになる第一の条件です。一冊好きな本ができた子は、必ず本を好きになるんです。しかし、その本との出会いは、こちらでないかもしれません。子供が一番本を好きになると、出会えないとが大切ですね。温かく子供に読み聞かせをされる姿が目に浮かぶ。

「読み聞かせをするときには、その人を通して伝わると言われます。作品が右から左へ伝わるのではなくて、いったん読み手の人間性を通すので、読み方の上手とか下手というのはあまり必要ないとも言われるんですよ。まず、読み手が作品に惚れ込むことですね。よい本にめぐりあうと、御自身、心から素直に感動されるという。

「子供の本を読んでいて、子供の発達といふのは、何にもできない子がだんだ

んできるようになつていくんじやなくして、大人にないものを子供が持っているということだと思います。例えば、絵本の素晴らしいところを見つたり、ぱっと本をめくつただけで、この間の作者と同じだねとか、子供は記憶しているのではないけれど、絵だけで見たら、この絵はだれの絵だとか、私たち大人が钝感になつていている部分で、すごく敏感な感性を持つているわけですね。

そんな「感じる」ということを大切にしたいですね。

本と触れ合うことを通して、子供を見つめ語られる、感性豊かな話しぶりに、温かいお人柄を感じた。

（氏名）しもだみつこ

生年月日 昭和十五年一月二十八日

住 所 岡崎市伊賀町四丁目三十三



んできるようになつていくんじやなくして、大人にないものを子供が持っているということだと思います。例えば、絵本の素晴らしいところを見つたり、ぱっと本をめくつただけで、この間の作者と同じだねとか、子供は記憶しているのではないけれど、絵だけで見たら、この絵はだれの絵だとか、私たち大人が钝感になつていている部分で、すごく敏感な感性を持つているわけですね。

雨の中での飯盒炊さんが始まる。たださえ上手に火をつけることができない五年生の子供たちにとって、雨の中での炊さん活動というのは至難の技である。

「薪をぬらすなよ！」と、先生の声が飛ぶ。分かつてはいるのだが、薪割りをしている子を取り囲んで呆然と立ち尽くしている子供たち。『ぼけっとしてらんて、傘をさすなりビニルの風呂敷で覆うなり、工夫せにやあかんぞ』

再び飛んでくる先生の声に、やっと気づいて動き出す子供たち。最近は自分から動くというより、こういう傾向の子供たちの方が多くなつた。

やつと火がついて、子供たちはけむりのを必死に堪えながら、交代でご飯を炊いている。その内に、苦し紛れの工夫も始まる。煙をまともに食わないようになっている。その内に、苦し紛れの工夫もある。薪をぬらさないように……。子供たちの心も、ちょっととした先生方の火つけによって、次々に工夫という炎を燃やし始めるのである。

機会をうまく生かすことによって、学習効果が上がるばかりか、子供たちの心に印象深い山の学習を展開することができるのである。自然の中で、自然とともに生活する機会を最大限に生かすことを行ひ考えていただきたい。

# 学校教育の視点

—平成3年度—

新教育課程の実施も、いよいよ小学校が来年度、中学校が再来年度と迫つてきた。二十一世紀へ向けての新しい教育への幕開けである。私たち教師一人ひとりが、その内容を正しく理解し、知・徳・体の統一ある児童生徒の育成と、生涯にわたる学習を支える基盤の形成に邁進することが大切である。

## 〔一〕学ぶ楽しさを感じさせ、自ら学ぶ態度や習慣を育てるために

「なぜ」「どうして」「もっとできるようになりたい」といった疑問や欲求は、子供たちのだれもが持っている。こうした疑問や欲求を子供たちが自らの力で解決した時、そこには必ずや学ぶことへの大きな喜びと自信、そして次の発展が生まれてくる。

一人ひとりの子供が主体的に学習に取り組み、自主的・自律的学習態度が身につくことを願い、特に次の二点に留意して指導したい。

第一点は、できるだけ子供の身近な生活の中から問題を掘り起こし、自分の課題として解決への必要感を持たせるようになして問題を工夫することである。

一人ひとりの子供が、問題を自らの課題として切実な気持ちで把握することができれば、問題解決への追究意欲も喚起され、学習に対して主体的に取り組むようになるはずである。したがって、教師は、子供の実態を的確に把握し、子供に

疑問・驚き・感動を与えるような教材を選択し、その提示方法についても新鮮な感覚で工夫することが必要である。

第二点は、基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせるとともに、情報処理や資料の生かし方など、学習の仕方を学ばせ、自ら学び続ける力の育成に努めるようになることである。

## 〔二〕礼節を重んじ、こころ豊かな児童生徒を育てるために

日本経済の高度成長と科学技術のめざましい進歩で、私たちの生活は満ち足りたものとなっている。しかし、物質面の豊かさにひきかえ、心の貧しさや道徳性の欠如は目にあまるようになった。著しい都市化や核家族化の波に、子供たちの日常生活は、自然や人とのかかわりが希薄となり、甘えや無責任で衝動的な言動





国際化、情報化の著しい今日、

学校教育に求められているものは、知・徳・体の統一ある児童生徒の育成と、生涯にわたる学習を支える基盤の形成である。

「教育は教師その人にある」

この言葉は、いつの時代にあつても、教育に携わる者にとって至言である。

岡崎の教師は、教育者としての使命を自覚し、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係をさらに強め、学校・家庭・地域が一体となって岡崎の教育の継承と発展に一層の努力を傾けたい。

### 指導の重点

一、学ぶ楽しさを感じさせ、自ら学ぶ態度や習慣を育てる。

一、礼節を重んじ、こころ豊かな児童生徒を育てる。

一、自らを律し、たくましく生きぬく力を育てる。

この現実を踏まえ、「礼節」と「ゆたかな心」を重点に、学校教育の全てを通して、心の教育の実現を図りたい。

### (三) 自らを律し、たくましく生きぬく力を育てるために

集団生活を営むためには、人として守るべき規範がいくつもあるはずである。

かつては、これらの多くは、家庭や地域社会において子供たちに教えられてきた。しかし、今日そうした教育力は低下し、生徒指導上、さまざまな問題が生じている。今こそ、子供たち一人ひとりに自分で自分の生活を律していく力をつける必要がある。

札節については、特にあいさつと返事を大切にしたい。教師と子供、子供同士の間には温かな友情が育つてほしい。自然に笑顔であいさつを交わすことにより、師弟の間には慈愛と敬慕の心が、友達の間には温かな友情が育つてほしい。

教師と子供の間は信頼関係で結ばれている。しかし、友達や仲間ではない。そこには当然長幼の序があり、礼を失してはならないこと、親の恩、師弟の関係等について礼節の大切さを子供たちに教え導くことが必要である。もちろん私たち教師は、子供たちが心から慕い、敬つてくれるような人格と力量を身につける努力を怠つてはならない。

ゆたかな心については、野外活動や労働体験、奉仕活動、動植物の栽培学習等を通して、子供たちに、汗を流すこととの尊さ、命の大切さ、思いやりの心、奉仕の心を体得させたい。

子供たちは、日常生活の中、意欲的に取り組み、自分の力を出し切った時、心は充実し、安定してくる。やる気は子供が伸びようとする力であり、自己を高めていく原動力である。一人ひとりの子供が、自分の能力にあつた目標を定め、自分の意志で努力する体験を積み重ねる

中で、心のゆたかさが育つていく。子供たちは、日常生活の中で、意欲的に取り組み、自分の力を出し切った時、心は充実し、安定してくる。やる気は子供が伸びようとする力であり、自己を高めていく原動力である。一人ひとりの子供が、自分の能力にあつた目標を定め、自分の意志で努力する体験を積み重ねる中で、心のゆたかさが育つていく。

第三は、子供の運々とした努力でもほめることである。敬愛する教師の称賛ほど子供の心を奮い立たせるものはない。表面に現れた結果は誰にでもほめられる。しかし、教師は、陰に隠れた子供たちの努力を見守り、称賛することこそ肝要である。





題字  
・ タイトルバック

岡崎市長 東海中六北小六北小城北中

畔倉山鈴中  
柳橋木根  
とも正光和鎮  
子博昭人夫

昭和三十六年、梅園小学校で行なわれた社会科教育研究協議会での紀要の元原稿である。当時の梅園小学校は、後藤金好校長を中心として、内田松夫氏、前教諭長横井滋氏といった方々の名が見える。

教師の「学習管理」では、児童の学習活動と表裏一体のものとして、多様な方法と適切な資料とが自由に駆使できるようにも考えられている。ここには「指示」「示範」など、教師の管理内容を示す言葉がすでに位置付けられており、現在の市現職教育委員会編集の「学習指導案作成の手引」の源流を見る思いがする。これは、三十余年を経た今なお、私たちの目に新鮮であり、これから実践と研究の指針となるものである。

級課	學習活動	學習單
導入	◎ 課題說明與學生問題	複習 附錄說明文字
概念	◎ 保育知識與問題	複習 1. 2.
問題	◎ 保育知識與問題	複習 二項
討論	◎ 亂丟垃圾的問題	複習 亂丟垃圾問題
研究	◎ 亂丟垃圾的問題	複習 亂丟垃圾問題
探討	◎ 亂丟垃圾的問題	複習 亂丟垃圾問題
總結	◎ 亂丟垃圾的問題	複習 亂丟垃圾問題
檢討	◎ 亂丟垃圾的問題	複習 亂丟垃圾問題

## 30年前の 学習指導案



「のれたぞ！ 一輪車」 子どもと文学の会

国土社 ￥1200

「日本らしさ」の新段階 草柳 大蔵

リクルート出版 ￥1200

「新・新東洋事情」 深田 祐介

文春文庫 ￥1200

「ホーキングの宇宙」 Quark 編集部

講談社 ¥1200

「ウォーリーのふしきなたび」 マーティン・ハンドフォード  
フルカラーペーパーバック ¥1,200

フレーベル館 ￥1300

絵本に対するイメージを一変させたのが、『ウォーリーのふしぎなたび』をはじめとする三部作である。

ストーリー性とか、主人公の人間性とかいう、いわゆる文学的な色彩は極めて薄い。数百人が登場する各シーン。そこに紛れ込んでいる主人公のウォーリーを捜し出す。読者は、この一点に集中する。

クイズを読み解くような楽しさと、複数の読者も参加できるゲーム感覚。不思議な魅力に溢れた絵本である。

桜花爛漫、希望に胸ふくらませた新入生。担任紹介に注がれる真剣なまなざし。「はい」の返事も元気いっぱい。在校生の歓迎の言葉で緊張した顔がしばしほころぶ。子供たちの後ろには我が子の成長を喜び、さらなる飛躍を願う親の顔がある。この感激と新鮮な思いを一年持続させねばと強く願う。

シオ  
スア

始まつた。今年度は、市内小中学  
入学式が例年より二日遅い。子供た  
ふえた春休みをどう過ごしただろ  
学校では、新学期準備にいつもの  
あわただしさは少なく、新しい出  
発に心の余裕をもつて臨めたのは  
嬉しい。

根理を感じる。湾岸戦争のニュースで、流出した原油にあえぐ海鳥の途方に暮れた姿から、今、人が自然に対して、何をしているのか、何をしつつあるのかの警鐘を聞くおもいがした。

スで、暮れに何をかの警

—すみません—という言葉には、なぜか美しい響きがある。リズムの快さとともに、それを発する人の奥ゆかしさ、ゆきとどいた気持ちといったものがうかがわれるからだろうか。日本人の心の奥底に脈々と流れ続けて、いる日本語の意味深さ、美しさを大切にしていきたい。